



川崎中ロータリークラブ会報

KAWASAKI NAKA ROTARYCLUB/FOUNDED 1972.7.15

【会長テーマ】 : 健康で明るい環境をつくろう

会 長 金子 利昭
副 会 長 小島 満
幹 事 叶野 聡
S A A 貝田 充
会報委員長 長谷山 尚城

2015~2016

第 2104 回例会

平成 28 年 4 月 12 日

例会日 毎週火曜日 12 時 30 分点鐘
例会場 川崎市中原区小杉町 3-10
ホテル精養軒
TEL(044)711-8855
事務所 川崎市中原区小杉町 3-428
山脇ビル 402 号
TEL(044)722-4331 FAX(044)722-6334
E-mail : k-naka@galaxy.ocn.ne.jp
URL:http://www.kawanaka-rc.com

例会報告

開会点鐘	金子 利昭会長
司 会	貝田 充 SAA
合 唱	「我らの生業」
お客様紹介	志村親睦活動委員長

ゲストスピーカー 高橋 眞知子様	神奈川県を考える会 患者家族会本部会 部会長
---------------------	---------------------------

小島 徹 会員 柁木 國義会員 井上 光明会員

ニコニココーナー

金子 利昭会員：このところ、例会に出られず申し訳ありません。皆様も健康に注意してください。本日、卓話高橋眞知子様よろしくお願いたします。

叶野 聡 会員：神奈川県を考える会 部会長高橋眞知子様。本日はご多忙の中、お越しいただきありがとうございます。

井上 光明会員：1 月 1 日に低温火傷をしました。お見舞いをいただいたり、ご心配をおかけいたしました。ようやく出られるようになりました。ありがとうございました。

田邊 進 会員：小生も 80 歳になってしまいました。それでも例会出席だけは忘れずに準備しています。どうぞよろしくお願いたします。

松田 敏治会員：先日はつまらない話を聞いていただきありがとうございました。これからもロータリーの会員として頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

渡邊 新治会員：卓話楽しみにしています。本日もよろしくお願いたします。

伊藤 文治会員：高橋眞知子様、本日はご多忙の中卓話

今後のプログラム予定

4 月	プログラム名
第 3 例会 4 月 19 日	中原警察署 署長 岩満優様 「薬物事犯の現状について」
第 4 例会 4 月 26 日	気象予報士 小川みどり様

出席報告

廣山宗一出席委員長

会員数	出席数	欠席数	出席率	前々回訂正出席率	
42 名	36 名	6 名 対象外 (4)	94.74%	欠 6 名 対象外 (5)	MU2 名 97.30%

【本日の欠席者】

市川 宏 会員 三木 治一会員 小泉 繁勝会員

をいただきありがとうございます。

富岡 昭一会員：高橋真知子部会長（神奈川骨髓移植を考える会）本日の卓話よろしくお願ひいたします。

高木 洋一会員：金子会長、退院おめでとうございます。
高橋真知子さん卓話ありがとうございます。

池田 亨 会員：①金子会長、お帰りなさい！！引続きよろしくお願ひいたします。②高橋様、卓話よろしくお願ひいたします。

川口 禮敬会員：高橋真知子さん卓話ありがとうございます。拝聴させていただきます。

白井 正男会員：本日の卓話、神奈川骨髓移植を考える会 部会長高橋真知子様お忙しい中よろしくお願ひします。

小川 慶一会員：いつもお世話様です。

長戸 隆彦会員：①先週は（入学式のため）お休みしました。②高橋様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。

合計 14 件	24,000 円
累計 691 件	843,000 円

会 長 報 告

金子 利昭会長

1. 中原区民祭実行委員会より平成 27 年度第 37 回 中原区民祭の協力のお礼状と事業報告書が届いております。回覧いたします。
2. 公益財団法人 米山梅吉記念館より春季例祭のお知らせが届いております。また賛助会ご入会のお願ひについても届いております。
<春季例祭>
日 時：4 月 23 日（土） 開会 14：00
場 所：米山梅吉記念館ホール
回覧いたします。参加ご希望の方は事務局までご連絡願ひます。

幹 事 報 告

叶野 聡幹事

1. 例会変更

川崎西北 4 月 17 日（日） 移動例会 飛騨高山観光
～18 日（月） 白骨温泉泊
4 月 21 日（木） 休会

川崎とどろき 5 月 2 日（月）休会

5 月 16 日（月）→ 5/15（日）～16 日（月）に変更
一泊移動例会 点鐘 17:45
大観荘 熱海

2. 会報受領

川崎とどろき R C 回覧いたします。

卓話：骨髓バンクと私

～ 神奈川骨髓移植を考える会 高橋真知子様



【スライドを交えて骨髓バンクの必要性・有用性を訴える高橋真知子様】

<卓話者略歴>

1948 年新潟県生まれ。71 年、川崎市立小学校教員に。92 年 3 月、二男悠の看病のために教職を去る。その後、ボランティアとして骨髓バンク啓発の活動に参加。財団法人「骨髓移植推進財団」（現日本骨髓バンク）普及広報委員、財務委員などを歴任。

現在は神奈川骨髓移植を考える会副会長、川崎支部代表。夫と多摩区菅仙谷に住む。

<卓話概要>

私と骨髓バンクとの関わりは、1990 年（平成 2 年）、二男（当時 5 歳）の突然の血液病の発症から始まります。それは、保育園からの帰り、なかなか止まらない鼻血を出したのがきっかけです。顔色も悪くだるそうにしていました。よく見ると紫斑も出ていました。

診断した医師から「病名は再生不良性貧血です。それ

も重症型です」「息子さんは、血液を造る工場、つまり骨髄の働きが悪くなり血小板がほとんどつくれないうのです。このまま出血して死に至ることがあります」と慎重に言葉を選びながらの告知がありました。「えっ？骨髄が悪いってどういうこと？」「骨髄って脊髄のこと？」「死んでしまう病気なの？」頭の中が真っ白になりました。それまでの幸せな家族の生活が暗転したのです。

都内の病院に入院すると頻回の血小板輸血と薬の投与が始まりました。しかし、「この病気は、残念ながら重症化するとなかなか治らず『骨髄移植』しか助かる道はありません」

骨髄移植とは「患者さんの機能しない骨髄、あるいはがん化した骨髄を、放射線と化学療法により徹底的にたたき、そこへ健康な人からの骨髄液を注入することなのです。幸いお兄ちゃんがいるのでお兄ちゃんと骨髄の型（実際は白血球の型；HLA）が合えばベストなのです」と言われ、さっそく7歳上の兄の白血球の血液型を調べたのです。しかし合致しませんでした。両親、親戚の検査をはじめ、国内のいろいろな大学に問い合わせをしましたが合致する者はいませんでした。兄弟間では1／4、他人となると数百から数万と言われる確率なのです。また、絶望です。

しかし、名古屋の病院に再生不良性貧血に詳しい専門医がいることを知り、そこへ転院し、「骨髄移植」の機会を待つことになりました。当てのない入院と名古屋での生活でした。

1990年当時、日本には民間の骨髄バンクが名古屋にあるだけでまだまだ日本に骨髄バンクをつくり、骨髄提供者（ドナー）を募る状況にはありませんでした。そうこうするうちに、民間バンクに登録していた私達夫婦がなんと、見知らぬ患者さんに骨髄を提供することになったのです。

そして、ついにその朗報が届きました。1991年12月に日本骨髄バンクが発足し、国内3例目の1993年2月に見知らぬ方からの骨髄提供を受けました。感謝の記者会見もしました。優しく勇気ある方から大切な1枚の命の切符をいただいたのですが、その後息子は残念ながら9歳の生涯を閉じてしまいました。悲しみや喪失の苦しみとともに私は、微力ながらバンクの啓発に努めて今日に至っております。

最後になって大変恐縮ですが、中ロータリー様からは平成8年より今日までたくさんのご寄付を頂戴し、私達の活動を支えていただきました。心より御礼申し上げます。おかげさまで、今では46万人をプールの大きな骨髄バンクに成長し、多くの患者さんの命が救われております。